摂食・嚥下委員会

委員長　細見直永

代表　　山脇　寛子

活動内容

患者さんの食べる喜びを支えるために、摂食嚥下や口腔ケアに対する理解を深め、病院全体で安全な経口摂取のためのケアが提供できることを目標に委員会活動を行っています。毎月第４火曜日 17：30～の定例会議を実施しています。高知県下の COVID-19 感染状況により 7・8 月の委員会が休会になりました。委員会への参加率は約 65％でした。

具体的活動計画として①委員育成②OJT/新人教育③嚥下フローチャート電子化を柱にしました。①委員会の司会・書記と摂食嚥下委員会通信「もぐもぐごっくん通信」の輪番制。自部署の現状把握と摂食嚥下に関する問題抽出。②新人看護師の口腔ケア指導と実技チェック。ロリハ認定講座の開催。③電子化時期決定と計画しました。

①司会・書記/もぐもぐごっくん通信は輪番表を作成し、各委員が 1 回は役割を担い委員会運営に携わることができました。問題点抽出では、義歯の取り扱い、紛失のトラブル、動揺歯、窒息リスクのある患者についての事項が多く報告されました。医師を含めた多職種にて対応を協議し、病棟へフィードバックしています。

②各病棟の新人看護師を対象に、委員が口腔ケア実技をチェックリストを用いて指導を実施しています。口腔ケア物品の選択やケア時の正しい姿勢を踏まえて口腔ケアができるように周知しています。また、感染対策を実施しながら、ロリハ認定講座を開催しました。講師はセラピスト、歯科衛生士、認定講座を受講修了している看護師が講師となり、7 名が認定を受けています。

嚥下機能評価フローチャートの電子化は、内容検討途中で電子化実現に至らなかったので次年度へ継続となりました。

実施内容

2022 年の嚥下内視鏡検査は 28 件、嚥下造影検査は 47 件でした（図 1）。

院内通信「もぐもぐごっくん通信」は 60~69 号を発行しました。委員スタッフの持ち回り制を継続し、それぞれの立場で摂食嚥下に関わることを発信しました。

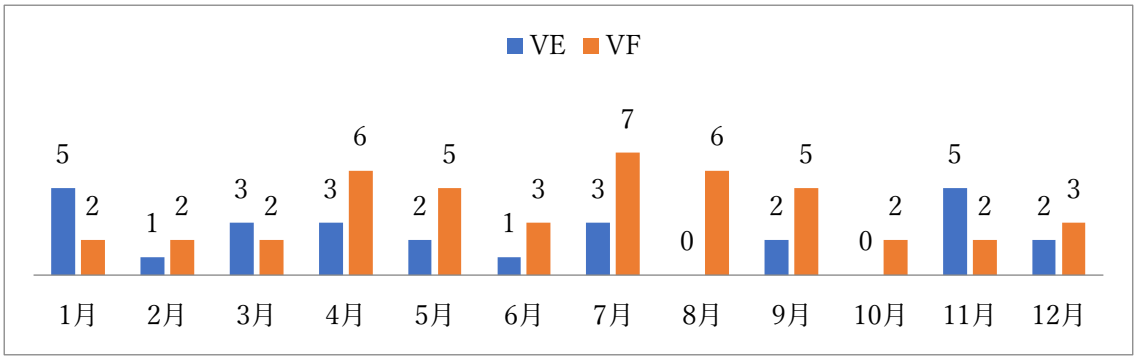

図 1.　月別 VE・VF 件数

次年度の課題

高齢者の入院が多く、誤嚥性肺炎で繰り返し入院する方への清潔な口腔環境の維持と、誤嚥や窒息リスクのある患者さんのリスクの低減を目指します。また、現場では繰り返し、紛失や破損などの義歯のトラブル報告があり、正しくチェックリスト活用を行えるように現場での指導も継続していきます。現場でより安全に食事提供が行えるよう、チームで検討し、嚥下機能フローチャートの電子化を実現したいと考えます。